

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体
育)／廣瀬 政雄

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

私の担当する授業科目は身体及び精神の保健、公衆衛生、生命倫理および健康に関する知識と教育実践力を習得させる内容である。当初、パワーポイントで作成した資料を配布し、授業内容を記入させるようにしたが、達成度が水準に達しない者が多くみられた。しかし、内容をほぼ完成させた小冊子を配布して行った授業で達成度が非常に向上した。この現象は、本学の学生は、授業に集中して取り組み、聴取した内容をメモをとって学習内容を完成できる学生が多くないことを物語っている。しかしながら、まとまった内容の小冊子があると、試験前に集中して学習でき、ある程度の達成度を持って行けることを意味している。このような学生に水準の達成度を求めるには、やはり小冊子の作成が最も必要とされている。すでに、「小児保健(保健学、症候学)」「小児地域保健」の小冊子を作成して、成果をあげているので、今年度は、授業担当分のうち未作成の一科目の小冊子を作成することを目標とする。

一方、聴取したことをメモしたり、授業内容を完成し発展させる自発的な学習も能力の伸長に重要だと考えられるので、資料に当たったり、インターネットで調べたりする機会が増えるような指導を行う。特に、本学のウェブに掲載している健康手帳の内容は学生には理解することが難しい面もあるが、授業で内容を解説するようにして教材として利用してみたい。

2. 点検・評価

最新の知見に合わせて、小児保健学と小児地域保健学の冊子の改定を行った。さらに、衛生公衆衛生学の冊子を執筆した。授業内容を完成し発展させるために、授業中に質疑応答を通じて課題を与え、資料に当たったり、インターネットで調べたりする機会が増えるような指導を行った。テキストを作成した教科はそれに沿って講義を行ったが、健康スポーツ学では、少し難易度の高い内容の健康情報を読み解く力をつけさせる目的で、本学のウェブに掲載している[健康手帳]の内容を授業にとり入れた。授業では、[健康手帳]の内容を理解できるように、これに即して基礎的な解説を行った。

評価は授業内容と健康手帳に基づいたものの割合を半々として、医師国家試験に用いられる方式を用いたため、学習に取り組んだ者とそうでない者が明確に判別できるようになった。次年度以降の授業の改善に生かせるものと考えている。また、これによる学習効果について、今後、評価する予定である。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

学生に対しては、定期健康診断を実施し、目標を持った学生の夢と希望が達成されるように健康面での指導を心がける。身体面と心理面で心身健康センターを受診あるいは相談に訪れる学生には、病気治療だけでなく体のしくみや病気の原因について説明し、教員になった後も児童生徒の健康指導に役立つような実践的な支援を行なう。

2. 点検・評価

学生に対しては、定期健康診断を実施し、学生の夢と希望が達成されるように健康面での指導を心がけた。健康診断の結果、既往歴や現病歴がある場合には、担当教員と本人の希望を調整し、病気の重症度に応じた受講ができるようにした。個別に身体面と心理面で心身健康センターを受診あるいは相談に訪れる学生には、病気治療および病院紹介を行い、勉学に支障が起きないように指導した。また、体のしくみや病気の原因について説明し、病気治療を効率的に行うのみならず、教員になった後も児童生徒の健康指導に役立つような実践的な支援を行なった。ボランティアなどの学外活動を行う学生には、必要な健康証明書を発行し、学生の負担を軽減した。

II-2. 研究

1. 目標・計画

○心身健康センターの所長として、心身の健康と保健管理の実際の活動から得られる有意義な医学的知見について研究する。
○「生活習慣病の予防」を担当する予防教育科学研究教育センターの構成員として、予防教育のあり方について研究する。
○科学研究費を申請する。
○古今の医学教育および各国の現在の医学教育に関する文献を調べて、医学教育の在り方および医学教育からみた教師教育の在り方について研究する。

2. 点検・評価

○心身健康センターの所長として、心身の健康と保健管理の実際の活動から得られる有意義な医学的知見について研究した。ゼミ生の研究テーマとして、MRワクチン実施後の本学学部生の麻疹抗体保有率の変動に関する研究を行ない、有益な知見が得られた。
○「生活習慣病の予防」を担当する予防教育科学研究教育センターの構成員として、予防教育のあり方について研究した。小児と成人の肥満のメカニズムとメタボリック症候群予防の方策についての論文が、鳴門教育大学研究紀要に掲載された。この研究内容を授業に取り入れて、学生と共有するように努めた。
○事情により、医学分野で認められる科学研究を遂行できないと判断したため、申請を見合わせた。
○ヒポクラテスの時代から現代の先進各国の医学教育に関する文献を調べて、医学教育の在り方および医学教育からみた教師教育の在り方について研究し、鳴門教育大学研究紀要に投稿した。教師教育にかかわる本学教員には参考になる面が大きいと考えている。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

○学校医として、学生の心身の健康の増進に関する指導を行なう。
○産業医として、学内の労働安全衛生環境の確保に貢献し、学生と職員の健康の維持と増進の活動を展開する。
○心身健康センター所長および所属する委員会(学生支援委員会、倫理委員会)の委員として大学の運営に貢献する。
○大学の諸活動において救護担当者として参加する。

2. 点検・評価

○学校医として、学生の心身の健康の増進に関して、定期健康診断、年間を通じての病気治療、各種証明書の発行などの医療行為を行った。学校医の業務は学校保健安全法により規定されたものである。
○産業医として、学内の労働安全衛生環境の確保に貢献し、職員の病気治療と医療機関への紹介など健康の維持と増進の活動を展開した。産業医の業務は労働安全衛生法に規定されたものである。
○心身健康センター所長および所属する委員会(学生支援委員会、倫理委員会、センター部運営委員会)の委員として大学の運営に貢献した。
○大学の諸活動において、救護担当者として参加し、大学祭の模擬店の食中毒予防の講習会を担当した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 附属学校の職員に対する定期健康診断、特殊健康診断および肝炎感染防止事業、および病気休業後の復帰支援などを通じて、健康面での支援を行う。
- 外国人学生の本学での医療と健康面での指導を通じて、勉学と研究を側面から支援し、国際交流に貢献する。

2. 点検・評価

- 附属学校の職員に対する定期健康診断、特殊健康診断および肝炎感染防止事業、および病気休業後の復帰支援などを通じて、健康面での支援を行った。
- 外国人学生の本学での医療と健康面での適切な指導を通じて、勉学と研究を側面から支援し、国際交流に貢献した。留学生は、日本に不慣れなこともあり、特に健康の問題は頼りにされることが多く、これに応えることは重要な責任だと考えて対応している。その中で、平成23年度に留学生の重大な病気を早期に適切に対処でき、研究がまともに無事卒業にこぎつけた症例があった。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

学校医および産業医の立場で定期的に健康診断を行い、保健指導の面で貢献している。これにより癌患者や慢性疾患を早期に発見し、回復または救命し得た患者も含まれる。また、年間を通して1400-1500人の患者の診断と治療を行っており、感染症の拡大を早期に防止するなど、個人の健康のみならず大学としての危機管理に貢献している。しかし、診療業務にはインシデントやアクシデントの危険性があり、薬剤投与による副作用や採血業務に際して発生する危険性あるいは診断の遅れなどにより、結果責任を問われる場合がある。また、健康証明書の発行においては、証明した内容に対する責任は重い。

従って、本学への総合的貢献としては、医師としての高度の専門性が関与する業務の面での貢献が大きいと考えている。